

学院

キャンパスだより

第6号



野辺地西高等学校

- 2 ▶ 八戸短期大学「看護学科」設置許可申請
- 3 ▶ 八戸大学・八戸短期大学研究実習館新築起工式
 - ▶ 第17回チャリティゴルフコンペ開催
 - ▶ 海の八戸NPO通常総会行われる
- 4 ▶ 八戸大学・八戸短期大学説明会実施
 - ▶ 図書館に小説等大口寄贈
- 5 ▶ 光星学院イノベーションプログラム（基金）
- 6 ▶ 平成19年度後援会・父母の会・同窓会役員会開催される
―八戸大学―
 - ▶ 「教育・研究・社会貢献後援会」開催 ―八戸大学―
 - ▶ キャリアアップに向けて ジョブサロンはじまる ―八戸大学―
- 7 ▶ 第56回全日本大学野球選手権大会出場 ―八戸大学―
 - ▶ 八戸大学OB・OG訪問 ―八戸大学―
- 8 ▶ 八戸大学が2007就職に「超」強い200大学にランクイン
 - ▶ 締さばブランド化へ 八大学生調査 ―八戸大学―
- 9 ▶ 介護等体験事前指導を実施 ―八戸大学―
 - ▶ 八戸大学「学内研究会」実施 ―八戸大学―
- 10 ▶ ライフデザイン学科特別講義
「もし、あなたが社長だったら」開催 ―八戸短期大学―
 - ▶ 就職出陣式 ―八戸短期大学―
- 11 ▶ 白浜海岸が巨大キャンパス ―八戸短期大学―
 - ▶ 沐浴体験 ―八戸短期大学―
- 11 ▶ 幼児保育学科多種多様な実習 ―八戸短期大学―
- 12 ▶ 施設実習を終えて ―専攻科―
 - ▶ 球技大会 ―専攻科―
- 13 ▶ 卒業生だより ―専攻科―
 - ▶ 介護福祉士講習 ―専攻科―
- 14 ▶ 関東就職者激励会・同窓会開催 ―光星学院高校―
 - ▶ チアリーディング部東北初の全国切符 ―光星学院高校―
 - ▶ PTA研修会 ―光星学院高校―
- 15 ▶ インターンシップで自分再発見 工業技術科・ビジネス科
―光星学院高校―
 - ▶ 東北大会結果と全国大会報告 ―光星学院高校―
 - ▶ 連載 変わりゆく校舎②「未来への礎」（工事本格化）―光星学院高校―
- 16 ▶ 「祇園の風情を」―35周年を向えて野辺地夏祭り参加―
野辺地西高校―
- 17 ▶ 女子空手道総体6連覇・東北総体4連覇 ―野辺地西高校―
 - ▶ さよならガブリエルくん ―野辺地西高校―
- 18 ▶ ボランティア部の活動について ―野辺地西高校―
 - ▶ 野西高祭 夏の陣 ―野辺地西高校―
- 19 ▶ 絵本から広がる表現の楽しさ ―第二しののめ幼稚園―
- 20 ▶ 木村登勇選手 10度目防衛
 - ▶ 村松選手（光星学院高校卒）日米大学野球MVP
 - ▶ 美保野キャンパスから新しい情報発信 オープンキャンパス開催

八戸短期大学「看護学科」設置認可申請



八戸短期大学に看護学科を設置すべく、文部科学省に対して「設置認可申請書」並びに「寄附行為変更認可申請書」を提出し、本年6月末に正式に受理された。

看護学科設置の基本構想は次のとおりである。

学科名称等：看護学科（3年制、入学定員80名、収容定員240名）

設置者：学校法人 光星学院

開設年月日：平成20年4月1日（予定）

次に、看護学科の設置認可申請に至った経緯および設置の趣旨・必要性は次のとおりである。

①これまでの経緯

学校法人光星学院では、平成17年5月に発足した八戸大学・八戸短期大学教育研究社会貢献後援会が、「八戸地域の健康の未来像を考える」をテーマに、同年11月に開催したパネルディスカッションにおいてパネラー諸氏から提言のあった、ア. 看護師養成の高度化を実現するための八戸市・医師会・学校法人・他看護施設との共同・協力による看護学科等の新

設、イ. 隣接地域に健康関連施設を総合的に配置する「健康づくり村」構想などを受けて、今日まで関係諸機関等との話し合いを通じて検討を積み重ねてきた。

さらに、昨年4月に診療報酬が改定されて看護師の配置基準が厳しくなったため、看護師不足に拍車をかける状況となっており、県内でも大病院を中心に看護師の大幅増員を進めている。

②高度化する看護師養成への対応

青森県における看護師の養成は、平成19年度現在19校で入学定員は900名余となっているが、そのうちの3分の2にあたる約600名が専門学校等の養成施設で養成されている。

医療の高度化に対応した質の高い看護師の養成が求められている現状にあって、大学・短期大学の高等教育機関における養成は、青森市・弘前市の4校、310名にとどまっている。

③八戸圏域の看護師養成の現状

県全体で900名余の入学定員のうち、八戸市内は190名（約20%）に過ぎず、

十和田市、三沢市の県南地方全体を含めても240名（約26%）という状況にあり、看護師・准看護師養成の4分の3が津軽地方に集中している。さらに、看護師に限定すれば県全体で700名弱のうち県南地方では140名（約20%）となっており、八戸圏域における看護師養成の体制拡充が求められている。

以上のような状況から、本法人が八戸市・医師会等の関係者と意見調整を重ねた結果、さらに、八戸市立高等看護学院運営委員会が決定した「当面高看存続」の現況においても、看護師養成の高等教育機関設置の必要性について大筋で賛意を得たものである。

また、平成17年度に開設した八戸大学人間健康学部との有機的な連携も期待されており、本年11月末に予定されている看護学科開設の正式認可、来年3月末の新校舎「研究実習館」の落成を経て、大学・短大の『健康』に対する取り組みが一層充実することとなる。

八戸大学・八戸短期大学研究実習館新築工事起工式



八戸大学・八戸短期大学研究実習館新築工事の起工式が平成19年6月18日(月)11時30分より、美保野キャンパス内総合体育館前で執り行われた。

起工式には、施工業者の清水建設(株)及び八戸大学、八戸短期大学の外郭団体の会長はじめ多数の方々にご出席を頂き、首藤正義神父様の司祭のもと、共同祈願、鍬入れが行われ、中村覺理事長が「光星学院の新たなチャレンジに邁進していく。校舎の無事完成を願う」と挨拶し、無事に終了した。

この建物は、八戸大学人間健康学部そして来年4月に開設される八戸短期大学看護学科のための研究実習館で、2階は人間健康学部研究室や医学実習室、3階は看護実習室や一般教室、4階は看護学科研究室や看護実習室など

が完備され、より専門性の高い充実した教育活動がはかられることになる。

また、1階にはロッカールームや学生ホールなどもあり、美保野キャンパスの学生達の新たな交流の場としての役割をはたすことになる。来春の完成をめざし工事も順調に進行中である。



第17回チャリティゴルフコンペ開催

第17回光星学院親睦チャリティゴルフコンペは8月6日(月)、八戸カントリークラブにおいて開催された。

今回も学院の各教育施設が日頃お世話になっている県内外の企業や外郭団体(父母の会、後援会、同窓会)の役員の方々を中心に112名の参加をいただき、心より厚く御礼申し上げます。

コンペ終了後には、表彰式及び懇親会場であるよねくらホテルにおいて、中村覺理事長より「独立行政法人国立病院機構八戸病院」の橋本均事務長へ今年度のチャリティゴルフコンペの益金が寄贈された。

なお、今年のコンペ優勝者は磯沼清史様(大創工業(株))でした。



海の八戸NPO通常総会行われる



平成19年5月28日(月)八戸水産科学館マリエントに於いて、海の八戸NPO通常総会が行われた。

総会には、中村覺理事長、蛇口浩敬学長、法官新一常務ら関係役員が出席し、平成18年度の事業・収支決算報告

を行ない、平成19年度の事業計画・収支計画の案件が承認された。その後の懇親会は、豊田ミヨ理事の挨拶にはじまり、出席した関係役員からは今後の運営等について話し合いが、終始和やかな中で行われた。

特定非営利活動法人海の八戸NPOは本学院の中村覺理事長が代表を務めており、八戸大学NPO研究会が母体となって発足されてきた団体で、八戸地域のまちづくり、雇用開発、文化振興、環境保全、地域活性化に貢献することを目的に平成15年7月に設立された。

海の八戸NPOでは、今まで、海の駅運営事業、海の観光案内事業、海洋レジャー教室事業、八戸船釣り大会・防波堤釣り大会後援、観光遊覧船シャーク号・屋形船運営協力、八戸カッターレース大会開催、海の朝市・国際朝市開催、海の八戸ウォーキング&セミナー開催などの活動を展開している。



八戸大学・八戸短期大学説明会実施

青森県内と岩手県内の高等学校を対象に行う八戸大学・八戸短期大学説明会が6月29日(金)に八戸市(八戸プラザホテル)で、7月13日(金)には盛岡市(ホテルニューカリーナ)でそれぞれ開催され、約30校の進路担当の先生方が説明会に訪れた。この説明会は毎年この時期に開催している。

説明会では、スライド形式による大学・短大の学部学科説明が中心に行われ、特色として学生たちの学問の実践や社会貢献への取り組みなどを説明した。また、来年4月に開設予定である八戸短期大学

看護学科について、カリキュラム内容や現在建設中の施設設備について説明があった。質疑応答では各校の進路担当教員から、看護学科の入学試験に関する質問が集中した。また、説明会の他に、個別相談コーナーを設け、高校の先生や受験生及び父母の皆さんが熱心に相談していた。



図書館に小説等大口寄贈

八戸大学・八戸短期大学図書館



この度八戸大学・八戸短期大学図書館へ工藤義弘氏(南部木材株式会社)より、ビジネス学部小渡康朗教授を通じて、平成18年9月に約1,000冊の寄贈がありました。平成19年3月に全ての図書の受入・装備が完了し、利用者の館外貸出に提供できるようになりました。図書の種類は、藤沢周平、津本陽、黒岩重吾、宮城谷昌光、沢田ふじ子らの歴史

小説や、高任和夫、幸田真音、江上剛、高杉良等の経済・企業小説が大半を占めています。

これらの図書の保管・配架場所は開架ではなく“書庫”に保管されておりますので、借りたい方は、図書検索システムOPACをご利用頂くか、気軽にカウンターの職員に声を掛けてください。OPACで検索した場合、コメント欄に【工藤文庫】と表示されているものが、工藤義弘氏からの寄贈図書です。是非、ご利用下さい。

ほっ

とたいむ



7月の末、事務室の窓をあけて仕事をしていると、窓をノックする音がした。振り返ってみると窓の外に生徒がいた。椅子から立ち上がって対応してみると、サッカーのユニフォーム姿で部活の帰りらしい。どうしたのと聞くと、「あのお〜、実は犬が道路に出ていて轢かれそうになったんです。それで、連れてきたんですけどお〜。」要領を得ない話である。それでどうしたと思ったのでし

たが、窓の下に目をやると確かに彼の手には古っぽいロープが握られ、その先には茶色の犬がいた。よく見ると首輪をしているので飼い主がいることだろうと思い、その辺に繋いで帰ることをアドバイスした。そしたら「でもお〜、また道路のほうに出て車にはねられたら…」と心配そうな顔をして、「電車の時間もあるし〜。」と続けた。自分のことも気になるが、この犬のことがよほど気になっているらしい。

そういう彼の気持ちを察して、電車の時間を確認すると「まだ少しは大丈夫。」と答えた。では駅までの間に白銀交番があるので、そこに預けたらきっと大丈夫と再びアドバイス。彼は一瞬困惑した

顔を見せたが、納得の様子ですぐに草むらにしゃがみ込もうとする犬を力で引き連れて行った。

それから、私はあの犬がどうなったか気になった。仕事帰りに白銀交番の前を車のスピードを落として通ってみた。あの茶色い犬が古っぽいロープに繋がれて、交番の脇で少し不安そうな顔で飼い主を待っていた。

翌朝、出勤時にまた白銀交番の前を車のスピードを落として通ってみた。あの犬はすでに居なかった。(ヒロ)

光星学院イノベーションプログラム(基金)

去年、ある卒業生が学院を訪ねて来ました。

「私は昭和41年に光星学院高校を卒業しました。卒業してすぐ就職しその後自立して仕事を始めました。親しみ深かった初代の由太郎先生にご挨拶に伺ったことがご縁で、光星学院には今日にまで大変なお世話になっております。実はそのときから母校のために少しでもお役に立てればと思って、わずかばかりの貯金を始めました。創立50周年という節目に自分が今あることに感謝を込めて寄附をしたい」という申し出がありました。大変ありがたいお話でした。

今学院では大きな事業を展開している最中ですが、今後も教育改革、教育支援、教育環境整備に法人あげて取り組みをしようとしています。幼稚園、高校そして大学と一応の教育環境は今年度で整備さ

れますが、今後はより学院全体の教育の充実に期することを目指して、この「光星学院イノベーションプログラム」を推進して参りたいと考えております。

この「光星学院イノベーションプログラム」事業の趣旨は本学の教育基盤をより強固なものにすることはもちろんですが、同時に地域の学校として、地域に貢献できることを目指して充実した学校づくりを目指していくということです。

すでに卒業生や企業を始め、広く光星学院を応援して頂ける方々に呼びかけておりますが、具体的な行動としてはまず内部の教職員の参加を、さらには外郭団体の皆さんのご理解とご協力を求めて参りました。お陰様で外郭三団体の皆様からは組織的なご理解とご協力が得られる環境が整って参りました。

また学院内の教職員につきましては、

7月末までに全教職員を対象にイノベーションプログラムへの参加を呼びかけましたところ、全教職員の九割を超える教職員のご参加が得られました。このことは学院の未来を考える上で大きな励みと自信になることと思ひ、改めて教職員の皆様には感謝を申し上げます。

今後、このプログラムは外部に向けて発信されていくわけですが、学院の教育に対する評価が高まれば高まるほど参加者が増えるものと考えております。ついでには我々は私学人として、それぞれの枠を超えて学院および学生・生徒に奉仕する精神をもって、毎日の教育活動に取り組みたいものです。

皆さんと共に、今後は広くイノベーションプログラムの推進に努めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。(法人管理事務室総務部)



平成19年度後援会・父母の会・同窓会開催される

八戸大学の教育研究活動を支援する目的で設立されている後援会（卒業生、卒業生・在学生の父母が会員）、父母の会（在学生の父母が会員）、同窓会（卒業生が会員）の、平成19年度総会が6月2日に開催され、平成19年度の事業方針が決まった。

以下、同日の会議の開催順に紹介をする。

○八戸大学父母の会

八戸大学父母の会（家口和夫会長）の平成19年度総会、第1回役員会は6月2日午前、八戸大学会館で開催された。会議では昨年度の事業・決算・監査報告、今年度の事業・予算計画について審議がなされ、原案通り承認された。

特に、10月から11月に八戸と盛岡で開催される地区懇談会について、教員と父

母が直接接することができる絶好の機会であるので是非参加してほしい旨、説明と要請がなされた。

会議の最後に、前会長の夏堀文孝氏に感謝状が贈呈された。

○八戸大学同窓会

八戸大学同窓会（柳町仁会長）の幹事会・評議員会は、6月2日午後、八戸大学教学事務室会議室で開催された。会議では昨年度の事業・決算・監査報告、今年度の事業・予算計画について審議がなされ、原案通り承認された。

大学からの出席者である蛇口学長・鈴木副学長から大学の近況報告がなされ、また会議では同窓会組織の活性化について深い議論が展開され有意義な会となった。



○八戸大学後援会

八戸大学後援会（山田政信会長）の理事会・三役会は、6月2日夕方から、八戸第1ワシントンホテルで開催された。会議では昨年度の事業・決算・監査報告、今年度の事業・予算計画について審議がなされ、原案通り承認された。

2年間の議論を経て、昨年10月から新しい組織体制となった後援会であるが、今後は父母の会や同窓会・大学当局等とともに連携を密にしながら、学院創立50周年や大学創立30周年（平成22年）に向け会務運営にあたっていくこととなる。



八戸市内を中心に北奥羽地方の経済・教育・文化など各分野の有識者で構成す

「教育・研究・社会貢献後援会」開催

る、八戸大学・八戸短期大学「教育・研究・社会貢献後援会」の平成19年度総会とテーマ別理事会「アジアの連携と八戸広域の活性化」（講演会）が、7月9日、八戸第2ワシントンホテルで開催されました。

総会ではこれまでの事業報告と決算報告がなされ、引き続き、鈴木宏一副学長・

ビジネス学部長が「アジアの連携と八戸広域の活性化—少子化の一大対策となりうるか」と題し、証券アナリストとしての世界的視野から八戸広域の将来像について講演、産官学民の連携や大学の活性化についてフロアからの質疑も多数あり、時間をオーバーしての白熱した議論が展開されました。

キャリアアップに向けて 八戸大学ジョブサロンはじまる

就職支援課の今年度の新しい企画である、「八戸大学ジョブサロン」の第1回目が6月15日（金）16:00より八戸大学の就職資料室で開催された。

この「八戸大学ジョブサロン」はジョブカフェあおもりの協力の下、全学部・全学年を対象として、キャリア教育の一環として位置づけ、様々な業界の先輩方を八戸大学に招き、仕事について本音で

語ってもらいながら、参加者が持っている質問、疑問に対し「フェイス to フェイス」でディスカッションしながら展開していく。

第1回目は「みちのく銀行」八戸支店の平山豊氏が講師を務めていただいた。入社三年目で融資を担当していて、金融機関の仕事や役割などを説明した後、現場で働く事の楽しさや苦労話をユーモア

を交えながら披露くださり、出席者の笑いを誘っていた。また、「どの仕事に就いても何事にもチャレンジする気持ちが大切」と出席者を激励していただき、終了した。

第2回目は7月20日（金）16:00から外食産業のチムニー株式会社人財本部採用部新卒採用グループの西田麻似子氏が前回同様、現場及び採用部での経験を踏まえながら、仕事の楽しさや苦労話を分かりやすく、ユーモアを交えながら、終始和やかに説明して下さり、活発な意見交換がなされた。終了後の出席者の満足した顔が印象的であった。

今年度は11月までに計5回実施する予定ですが、低学年の段階から、企業理解、働くことの意義、自分発見など、将来を見据えた学生生活を送ってくれる事を期待している。





第56回全日本大学野球選手権大会出場



全日本選手権大会では、初戦の別府大学戦（東京ドーム）で、櫻田の好投と菅



原翔（3年・甲府工業）のホームランなど少ないチャンスをものにして2対1で勝利を勝ち取りました。2回戦の関西国際大学戦（東京ドーム）では、相手好投手の前に打線がつながらず1対2で敗れてしまい神宮球場の地を踏むことはできませんでした。選手権大会後に神奈川県平塚球場で行われた第36回日米大学野球選手権大会の選考合宿に櫻田、秋山が参加しました。惜しくも代表からは洩れてしまいましたが二人とも今後につながる良い経験になったにちがいません。秋こそは神宮球場の地を踏みチームの目標である日本一を目指し、これからの練習に力を入れたいと思います。



験になったにちがいません。秋こそは神宮球場の地を踏みチームの目標である日本一を目指し、これからの練習に力を入れたいと思います。



6月13・14日に東京ドームで行われた全日本大学野球選手権大会に出場した八戸大学硬式野球部の応援に、八戸短期大学のチアリーディングチーム ARROWSの学生14名と、ウインドアンサンブルの学生10名が参加しました。

ARROWSは昨年度から発足し、顧問である岩館千歩講師（幼児保育学科）の指導の下、またウインドアンサンブルは田端利則教授（幼児保育学科）の指導の下、それぞれ活動をしています。

下、それぞれ活動をしています。

ARROWS、ウインドアンサンブル共に、地区大会の応援には何度か参加してきましたが、全国大会での応援は初めてであったため、今までに無い気合の入った練習を積み重ねてきました。初めは相手チームの迫力ある応援や初めて見る広い

友情応援 八戸短期大学 チアリーディングチーム ARROWS & ウインドアンサンブル

会場の雰囲気や圧倒され、思うような動きや表情ができないうえに、顧問の先生が先頭に立ち手本となることで、徐々に学生の緊張もほぐれ、特に、オリジナル曲“みほのマーチ”（トランペツ

ト担当松川容子作曲・2年三沢商業）では、応援団一丸となって元気で迫力ある思い切った応援をすることができました。

学生にとっては、応援することの楽しさやみんなで協力し合い、一つのことを成し遂げるこの意味など、さまざまなことを学べた二日間であったと思います。全国という大きな舞台で応援したことは、これからの自信にも繋がり、更なる活躍にも期待できるであろう。



「八戸大学」OB&OG訪問 part6



▲アールキャスト(株)営業担当
川村 一さん

プロフィール

八戸商業－八戸大卒(16回生)。卒業後、八戸青果(株)に就職し、現在は人材派遣会社アールキャスト(株)営業担当。学生時代は学友会執行委員長、弓道部主将を務めた。

Q・はじめに大学時代の思い出を聞かせてください

A・学友会や部活動（弓道部）を通じて、一生つきあえる仲間に出会えたこと、新しい学友会や大学祭づくりなどの目標に向かい、いい先輩や教職員に出会えたことがいい思い出です。

Q・学友会活動の思い出話を聞かせてください

A・学友会で初めて文化講演会やクリスマス企画を開催したときです。木に登り配線を行った手作りクリスマスイルミネーションと学生ホールを使ったクリスマス会を成功させたこと。文化講演会では、想像以上の方が日本全国から聞きに

来てくださり、うれしかった反面、大勢の方を前に挨拶したとき緊張して大変でした。また、学友会誌「若草」を創刊したのもいい思い出です。

Q・現在の学生のイメージは？

A・昨年の同窓会大会の際、在学生のプレゼンを見ましたが、すごく成長したし、変わったなと思いました。自分たちの時にはそういった機会はなかったし、もう一度八大に入学して、もっと勉強したいと思いました。

Q・最後に在学生へのメッセージをどうぞ

A・人材派遣の仕事に携わっていますが、今、企業が求める人材は学力ではなく、何でもやるという前向きな姿勢です。常に新しいことにチャレンジすることを忘れず、勉学に励んでください。

八戸大学が2007就職に「超」強い200大学ランクにランクイン

八戸大学が07就職に「超」強い200大学ランクにランクインした。このデータは読売ウィークリー（2007.8.12号）に掲載された大学通信のデータによるもので、今年から就職者300人以上の大学と300人未満の大学に分けてそれぞれラン

クを発表した。八戸大学は就職者300人未満の大学で67位にランクし、東北の大学では6番目に位置した。

最近、大学の就職実績に注目が集まっている中、各大学は従来にも増して就職支援に力を入れている。八戸大学でも学生・ゼミ教員・就職支援課が三位一体となり、求人開拓、面接指導、情報提供を行い、即戦力となる人材育成に努めている。

就職支援課が主催する支援イベントも豊富で、企業研究会はもちろんのこと、毎年11月に行われる八戸大学独自の就職合宿は自己分析の方法や面接トレーニングなど、就職活動に向けての細かい指導が行われ、八戸大学就職支援プロジェクトの主軸となっている。

このような八戸大学の就職支援に対する三位一体プロジェクトが高い就職率となって現れている。

37～80位（同）

順位	大学名	所在地	卒業生 （単位）	就職者 数	就職率 （％）	就職率				
						06	05	04	03	02
37	久留米工業大学	福岡	307	269	10	90.6	88.9	85.9		
38	新潟産業大学	新潟	181	163	1	90.6				
39	宮城大学	宮城	277	234	18	90.3				
40	鳴門教育大学	徳島	100	74	18	90.2	84.5	81.2	88.7	87.9
41	群馬医療科学大学	三重	287	239	22	90.2	80.5	78.9	80.9	77.0
42	天竺大学	北海道	215	192	2	90.1	90.7	87.7	87.8	
43	昭和大学	東京	269	177	72	89.8				
44	鹿児島純心女子大学	鹿児島	198	174	4	89.7				
45	聖隷クリスティー大学	静岡	219	196	0	89.5				
46	多摩大学	東京	278	246	3	89.5	87.1	85.7	84.6	87.1
47	西武文理大学	埼玉	259	227	5	89.4	88.1	88.2	72.0	79.4
48	熊本保健科学大学	熊本	212	184	5	88.9				
49	上越教育大学	新潟	170	139	13	88.5	87.1	76.5		84.6
50	興大大学	広島	222	185	13	88.5				
51	関西福祉大学	兵庫	289	236	2	88.4	90.8	87.0	86.1	84.9
52	畿央大学	奈良	180	156	3	88.1				
53	富山国際大学	富山	62	52	3	88.1	93.3	88.2		92.2
54	中国学園大学	岡山	58	50	1	87.7	86.4			
55	龍谷大学	京都	259	197	34	87.6				
56	田園調布大学	神奈川	209	182	1	87.5	91.1			
57	岡山県立大学	岡山	396	286	68	87.2				
58	山口県立大学	山口	19	87.1	83.1	86.7	83.9	82.4	80.7	
59	聖カタリナ大学	東京	0	87.1	85.7	89.9	88.7	79.9		
60	東洋大学	東京	12	86.8						
61	山梨大学	山梨	86.5	84.7	81.4	75.3				
62	富山大学	富山	86.2							
63	中央大学	東京	7	85.9						
64	富山大学	富山	4	85.8	86.0	76.9	80.7			
65	名古屋大学	名古屋	177	1	85.5					
66	大分県立大学	大分	303	252	8	85.4	79.1	77.3		
67	八戸大学	青森	91	76	2	85.4				
68	仁愛大学	福井	208	169	10	85.4	93.7	82.7		
69	奈良教育大学	奈良	334	246	45	85.1	82.3	80.4		76.7
70	旭川大学	北海道	127	106	2	84.8	80.8	75.8	73.9	70.8
71	三重中央大学	三重	171	144	1	84.7				
72	新潟国際情報大学	新潟	278	234	1	84.5				
73	群馬県立女子大学	群馬	182	145	10	84.3				
74	静岡医療大学	静岡	238	196	5	84.1	80.6	79.8	72.4	68.8
75	九州産業大学	福岡	109	90	2	84.1	87.4	78.4		
76	お茶の水女子大学	東京	523	287	180	83.7				
77	京都薬科大学	京都	337	210	86	83.7	85.1	87.1	87.1	86.3
78	岐阜薬科大学	岐阜	173	97	57	83.6	84.5	85.7	88.7	87.8
79	北海道文教大学	北海道	209	172	3	83.5				
80	仙台白百合女子大学	宮城	305	252	3	83.4	83.3	80.9	81.4	78.8

67 八戸大学



読売ウィークリー 2007.8.12

締めさばブランド化へ八大学生調査

八戸の締めさばを地域ブランドにできないか、と八戸大学の学生たちが6月23日、八戸市の百貨店・三春屋でアンケート調査を行い、消費者の声を集めた。宣伝に工夫を求める意見が目立った。

サバは、イカと並んで八戸港を支える主力魚種。締めさばを製造する水産加工会社は八戸市に集中しており、全国の生産量の9割前後を占めると言われている。八戸大学ビジネス学部・石原慎士准教

授が指導するゼミの学生たちは、八戸の締めさばの付加価値を高めることを通じて産地を活性づける方法を考えてみよう、と、まず地元の消費者の声に耳を傾けることにした。

学生たちは、調査への協力を得た八戸市内の水産加工会社の法被を着て、買い物客にアンケートを実施。

北村隆嗣さん（ビジネス学部2年）は「ブランドに育つ可能性は『ある』とい

う答えが多かったけれども、PRを工夫する必要があるという意見が目立った」。佐藤望未さん（ビジネス学部2年）は「各メーカーがさまざまな味付けを競っているんで食べ比べができる機会があればいい、という声があり、なるほどと思った」と話した。

東奥日報

（2007.6.23 Web 東奥・ニュース）より

介護等体験事前指導を実施

5月16日(水)より美保野キャンパス内において、中学校教員免許(保健・保健体育)の取得を希望する人間健康学部 of 学生を対象に、介護等体験の事前指導が行



なわれた。学生は、この事前指導から、これから行なわれる特別支援学校や社会福祉施設・老人保健施設等での計7日間の介護体験のための心構えや留意点について学習する。

5月23日(水)には、介護老人保健施設「しもだ」で看護師長を努めている赤坂寿子先生に、福祉施設の現場について聴くことが出来る貴重な体験だった。

写真は5月30日(水)に行なわれた講義「車いす・白杖の体験」の様です。わずかな段差が、高齢者や障害者にとっては転倒の危険を



伴うことや、介助の仕方、声かけのタイミングなどを各自が体験を通して学んだ。

八戸大学「学内研究会」



7月27日(金)図書館内チャペルにおいて、八戸大学研究委員会(野村美佐子委員長)主催による「学内研究会」が開催された。

今年度、第1回目となる「学内研究会」は八戸大学ビジネス学部丹羽浩正教授が「仕事と働きがい」というテーマで発表した。

丹羽教授は働くということ、お金を儲けること、稼ぐこと、働きがいや生きがいについて、昨今のIT企業経営者による不祥事 of 多発を例に挙げ、倫理に基づいて行動する自立的思想と行為が、現在の経営者だけではなく、働く人々にも求められていることを忘れてはならない。と倫理観や法令順守について説明をした。

またキャリアという言葉の定義から、目標が人を創り、目標に挑戦しているときにワクワクし、心地よい緊張が人を成長させていくことを説明した。



ほっ

と
たいむ

「ちょっと聞いてくれよ」と少しばかり興奮気味に尋ねてきた。表情はとても明るい。

尋ねてきたのは大学のゼミの先生。表情から見て、何かいいことがあった。と直感した。

私の前に置かれているイスに腰を

降ろした先生は、お徐に携帯電話機を取り出し、「学生からメールが来てさ」とメールの画面を見せた。そこには「内定しました。ありがとうございました。明後日、先生のところへお邪魔します。」と書かれていた。自分のゼミの学生が内定を取ったのだ。聞けば、内定を取るのに結構難しい企業を受けていたようだ。

「よく勉強した。すばらしいよ。どこに出しても恥ずかしくない学生なんだよ」興奮冷めやらぬ様子で先生は饒舌になっ

ている。先生のゼミで内定が出たのは4人目で、家庭環境に恵まれないにもかかわらず勉強して、努力して、難関の内定を取った事にとても喜んでいる。本当に素直に嬉しいのだ。先生は満足そうにその学生を称える。

「教員冥利につきますね」少し間をおいて「そうだね」と答える先生の表情には、次のステップに確実に向かっている。(ハオ)



6月1日(金)にライフデザイン学科1年生の講義「地域産業論」で、特別講義が行われた。講師には株式会社三沢奥入瀬観光の総支配人 佐藤大介氏を招聘し、

ディスカッション形式で開催した。

この地域産業論は、地域にはどんな産業があり、その顧客は誰で、商品は何か？なぜその産業が成立し、どんな人が支えているのか？また、その産業が存在するこの地域に固有の資源はどのようなものか？あなたが社長だったら、この地域でなにを起業したい

か？観光だったら、なにを売り物にするか？など。地域の資源と産業について多角的、実践的に考察することで、地域を立体的、構造的に理解

し、地域産業社会における自分の立ち位置を認識できるように講義を展開している。

この日学生たちは、「もし、あなたが社長だったら」をテーマに青森県の観光業再生について意見交換を行いながら、観光業界の実態などを理解し、地域産業についての理解を深めた。



就職出陣式

6月6日(水)就職指導の時間に「ライフデザイン学科平成19年度就職出陣式」を開催した。

出陣式は、内海隆学長補佐の「激励の言葉」の後、猪股清美就職支援課長より平成20年春、採用状況分析の説明があった。その後、学生を代表し中村唯さんから、「積極的に就職活動を行い、必ず各自が希望する就職先に内定を決められる

ように精一杯努力する」との決意表明があった。最後に高橋剛君

による各学生の積極的な就職活動に向けた、気合を高めるための喊声で出陣式を終了した。

景気が徐々に回復しつつあるとはいえ、地方の雇用情勢はまだ厳しく、学生一人



ひとりが希望する会社の内定を勝ち取るため今回の出陣式で見せた気合を持って就職戦線に乗り込んで行って欲しい。



白浜海岸が巨大キャンパス

5月30日(水)に幼児保育学科の学生210名が八戸市鮫町にある白浜海岸で、砂浜彫刻実習に取り組んだ。学生たちは、浜辺を大きなキャンパスとして思い思いの作品を制作し、童心に返り、彫刻づくりに励んだ。

この砂浜彫刻では、「健康・人間関係・

環境・言葉・表現」の5領域の全てを網羅している砂遊びは子どもの創造性を育て、コミュニケーションの発達に役立つ。将来保育者を目指している学生自身が、自然の中で体感したものを今後の保育活動に役立てることを目指し、5年前から実施している。

この日は、ゼミごとに12グループに分かれ、「日本の美」をテーマに作品を制作。バケツで海水を汲んで砂を固めては形を整えていき、テーマに沿った作品を約2時間かけて完成さ



せた。砂まみれで制作していた学生は「砂を固めるのが大変」「作り始めると、子どもたちが夢中になるのが分かる」などと笑顔を見せていた。

沐浴体験



5月22日(火)に幼児保育学科1年生が「沐浴実習」を行った。この実習は、カリキュラム「小児保健実習」の一環で、保育者として子どもの安全を守り、健やかな成長発達のための援助ができる人材

を育成することを目的としている。

今回の「沐浴実習」実施にあたり担当教員の小幡佐久子先生からオムツの当て方や衣服の着脱、沐浴の仕方を細かく指導を受けた。乳児は、新陳代謝が激しいのに肌が弱いので、すぐにあせもができていたりだれたりするので毎日お風呂に入れることが基本である。生後1ヶ月まではベビーバスを使うが、1ヶ月を過ぎたら大人と一緒にお風呂に入ることができる。夏は濡れた体が冷えるので、扇風機等の風があたらないよう



に気をつけること。冬は部屋を十分に暖めることなどの注意点を受け、学生たちは赤ちゃん人形を使いながら実践していた。

赤ちゃん人形とはいえ、初めての体験に戸惑いながらも学生たちは、沐浴の大切さや難しさを感じながら、保育に必要な技術を身に付けていた。

自立した保育士を養成するために幼児保育学科では、様々な特色のある実習等を行っている。「保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「幼稚園実習」はもちろんだが、八戸短期大学は自然に囲まれた素晴らしい環境。その環境を活かした「砂浜彫刻」を5年前から実施している。

そして、八戸短期大学幼児保育学科の最も特色あるのは「模擬保育」。この「模擬保育」は独自のプログラムになっており、実習の事前指導として位

置付けられている。学生がそれぞれ先生役と子ども役に分かれ、学内で何度かロールプレイングされ、本番の実習に備えていく。子どもへの声かけ、言葉遣い、表情などに注意しながら子どもに接するように進められる。また、学生はカリキュラムで座学と実技系の講義をそれぞれ独立した形で学んでいるが、実習はその成果を発揮する集大成の場となっている。その場でスムーズに進められるよう、何を学ぶのか、どういうことについて知り

幼児保育学科の多種多様な実習

たいのかなど、この「模擬保育」では最初にどう子どもとコミュニケーションをとるか、どう声をかけるかなど、自分の課題を見つけることが目的となっている。

施 設 実 習 を 終 え て

専攻科 介護福祉科2年

出 員 友 香 里

私たちが介護福祉士として現場で働くためには、レクリエーションインストラクターの資格が必要とされています。施設では、入所されている方々のレクリエーションをより楽しくするために企画から運営を自分でしなければなりません。専攻科での学習で足りない部分を補うために私は第2段階の施設実習において、このレクリエーションインストラクターの実践をしました。

6月4日から7月7日までの5週間、場所は介護老人保健施設で、医療施設と福祉施設の中間の性質を持った所で、病院での治療を終えて家庭復帰を目指し機能回復訓練を行うところです。

私は第1回のゲームで、後期高齢者の75～85歳の男女15～20人のグループに風船でバレーボールを行いました。スペースが狭いうえ配置が上手いかわず利用者

に風船が均等に行かず楽しみが半減しました。このことを反省し第2回目は人数を減らし円形に配置したことで全員にパスが渡るようになりました。運動後には「八戸小唄」「はとぼっぼ」や私の知らない童謡を利用者が自ら歌ってくれました。そのおかげでレクリエーションは盛り上がり、楽しく終わることができました。もう一度やりたいと言いながら涙を流した利用者もいました。今回のレクリエーションは、40分の時間と利用者の体力から見て丁度よいという結果になりました。

今回のレクリエーションを通して、種目によって人数を変えることや利用者の

意欲を引き出すことの大切さを学びました。今後私はレクリエーションインストラクターの資格を取得し、いつでも利用者のことを考えたレクエーションを展開できるように学習し知識を高めていきたいと思っています。



球 技 大 会

平成19年度最初の学生会行事の球技大会が7月20日(金)開催されました。

全校生徒が体育館に集まり、高橋孝裕副会長(自2)の開会のあいさつの後、3競技(バレーボール・バドミントン・ソフトボール)に分かれて大会がスタートしました。各競技は基本的にクラス対抗戦で行われますが、人数が少なくやり

くり苦労しているクラスもありました。ソフトボールは途中から雨が降り出して中止になりましたが、その他の競技では1年生が2年生に勝つゲームも多く、最後まで激戦が続いていました。夏休み前の最後の日のため表彰式は後日となりますが、各競技の上位者には記念品が贈られる予定になっています。結果は、バレーボールの優勝が自動車科2年生、バドミントンの優勝は自動車科2年生のBチームとなりました。

学生会では今後も日程や競技種目などを考え、球技大会の充実を図っていきたいと思っています。



卒業生便り



～後輩へのメッセージ～



自動車科 31回卒業
松本 大佑



皆さんこんにちは、私は平成18年3月に専攻科自動車科を卒業した松本大佑（光星高校出身）です。自分は今トヨタ自動車の中にあるTTDC（トヨタ・テクニカル・ディベロップメント）スキルトレーニング部というところで働いています。仕事の内容は、高卒者やリクルート社員の人達にエンジンの脱着、エンジンの分解、組み付け、足回りの脱着、そこで出てきた各部品の説明、と学校で先生方に指導されたことを教える仕事をしています。人に教えるということはものすごく大変ですが、年上の方の面白い話が聞けたり、日本ラグビー界のトップ選手（正面さんと言う方）と話す機会があったり、ブレイクダンスの達人さんからダンスを指導していただいたりと、つらい反面いろいろと楽しいことがあります。何はともあれ会社に入ってから日々

勉強です。ましてや自動車関係の仕事に就く人は、基本をしっかり身につけておかないと大変です。仕事が終わって家に帰っても疲れて勉強なんか出来ません。自分が言えた立場じゃないですが、学校の授業はちゃんと受けたほうがいいですよ。どんな仕事も最初は覚えることが多くて大変だと思いますが頑張ってください。

それではこれから先、就職試験に国家試験にと忙しい日々が続くと思いますが、体調を整え試験に合格できるように頑張ってください。先生方も大変なこととは思いますが、健康には気を付けて頑張ってください。

去年はとにかく暑かった豊田市からでした。

介護福祉士講習



介護福祉法の一部改正に伴い介護技術講習会は平成17年度にスタートし、平成17年度と18年度は年2回、19年度は年3回の実施予定で、既に6月の講習は済んでおり残りは10月・11月に実施する予定です。今年度の申込みは既に終わっているが、常に申込みが殺到しキャンセル待ちが40名以上出る講習会である。（ちなみに1回の定員は40名である。）この講習会は、介護福祉をサービス対象とする方々、特に超高齢社会を支える介

護福祉士の養成とその質の向上を目的としている。受講資格は「介護福祉士試験を受ける予定であり、実技試験の免除を申請しようとする者であること」とされており、福祉科卒業見込みの高校生、NHK学園専攻科卒業生および実務経験3年以上の者である。32時間以上の講習と演習を行い、最終日の修了試験に合格すれば修了認定が受けられ3回の実技試験が免除される。

介護福祉に関する問題は、労働条件の悪さや人員不足など様々なことがあるが、法の整備やカリキュラムの改正を行い、

介護教育の充実や人員確保のための対策などに重点的に取り組むことにより、福祉の環境はめまぐるしく変わりつつある。この環境にいち早く対応するために介護技術講習会は、生活支援の専門家として質の高いサービスを提供する介護福祉士が、より社会的な地位向上をするために必要な講習会である。



関東就職者激励会・同窓会開催

6月29日(金)、東京・品川にある中華料理店『高輪』において、平成19年度就職者激励会・同窓会を開催いたしました。当日は、梅雨時でありながらも涼しさを感じた日でした。

激励会は、企業側から10名のご出席を



賜り、今春の卒業生12名、学校教員5名の計27名参加者で行われました。山西幸子校長より卒業生への激励の言葉に始まり、続いて企業側を代表して株式会社『みずぎ製作所』取締役社長 小林秀一様から『「我慢」の大切さ』についてのお話をいただきました。この時期は、卒業生にとって、仕事にも慣れ同時に社会や仕事の厳しさに直面している頃であり、非常にためになる貴重なお話でした。

その後の同窓会には、さらに8名のOBの方々に加わり、総勢35名で開催されました。最初は緊張していた新卒業生でしたが、学校の様子を撮ったビデオを観たり、恩師との語らいで、しだいにいつ



もの自分を取り戻していました。

和やかなうちに会も進み、最後に第3回卒業生の佐伯学様から学生当時の話なども交えながら締めのご挨拶をいただき、来年の再会を誓って同窓会を終了しました。

ご出席下さいました企業の皆様、OBの方々、新卒業生の皆さんに感謝申し上げます。

チアリーディング部 『東北初の全国切符』



今から16年前にチアリーダー部を創設し、応援団と共に甲子園を経験するなど思い出深い活動を続けてきましたが、5年前から「本格的なチアリーディング」に目標を変え、専門コーチを迎えるなどしてチアリーディング競技会に出場できるよう活動を続けてきました。

昨年度は、東北大会で「敢闘賞」、



札幌で行われた北日本大会では第4位の成績を収めました。年々技術力が増し、新しい目標に「全国大会出場」を掲げました。一日4時間、休日は7時間の練習に耐え、夢でしかなかった全国大会の出場権をみごと東北の学校としては初めて獲得しました。(注：地区大会で優勝しても、技術ポイントが規定以上ないと全国大会に出場できないことになっている。)

全国大会は、8月31日から国立代々木第一体育館で開催され、我が校のチアリーディングチームLUSTERS(ラスターズ)はいよいよ全国の晴れ舞台に立つ。



7月14日に宮城県岩沼市総合体育館において開催された「JAPAN CUP 2007」チアリーディング日本選手権・東北地区予選会で、東北チャンピオンという栄冠に輝くと同時に全国大会への出場権も獲得しました。

P T A 研修会

光星学院高校のPTA研修会が7月11日(水)に開催され、今年も美保野キャンパスを訪問しました。坂本玲子先生の講演から始まり、各施設の見学では各施設担当者による親切で丁寧なエスコートのものと盛況のままに終了致しました。

見学ルートは以下の通りです。

「親と子のコミュニケーションスキル入門」講師：坂本玲子八戸短期大学幼児



保育学科教授→八戸短期大学(ピアノレッスン室、調理実習室)→大学会館(昼食バイキング)→図書館(チャペル)→八戸大学(就職資料室、人間健康学部実習室)→光星学院専攻科(介護福祉実習

室、自動車実習室)

見学をして、系列校の素晴らしい施設、設備があったことを再確認致しました。今後も系列校との連携を益々密にしていきたいと思っております。



インターンシップで自分再発見



7月9日(月)から7月13日(金)まで5日間の日程で現場実習が行われ、予定通り無事終了することができました。

実習前の生徒達は緊張した面持ちで最後まで無事終えることができるのかと不



安に思いましたが、実習を終えた生徒達の顔を見ると、そこには一回りも二回りも成長した様子が伺われ充実感が漂っていました。

実習内容は各企業さまさまざまな内容でし

たが、どこの企業にも共通しているのは「挨拶」、「時間厳守」、「行動力と責任感」などで、生徒達は改めてこれらの大切さを知ったと思います。また、実際の現場での作業体験は学校の授業では体験できないものもあり、実社会の厳しさを肌で感じるにより、自分自身を見つめ直すいい機会であったと思います。その中で新たな発見があり、自分自身を再発見できたのではないのでしょうか。5日間といえども実に内容の濃い期間であったと思います。実習を終えた生徒一人一人の目は今までになく輝いており、まさにそのことを証明していました。

最後に、今回の実習にあたりご協力下さいました各企業の皆様に心から感謝申し上げます。

東北大会結果報告と全国大会出場



6月に行われた東北大会には本校より団体戦、レスリング・ソフトテニス女子・サッカー・硬式野球が出演。個人戦には、レスリング・ソフトテニス女子・陸上競技・空手道男女・柔道女子・卓球

男子。以上、8種目、男女合わせて総勢91名の選手が出場した。出場選手数からみると昨年より20名増えているが、理由として

はサッカー部の復活が上げられる。

結果は、レスリング部が準優勝、ソフトテニス部が3位の成績であった。個人戦では、レスリング50kg級：山内拓真選手が優勝、74kg級：葉澤謙選手が第2位、

ソフトテニス部小関香奈・道端瑠依子組が第2位、空手道女子個人組手：高谷郁子選手が第2位、同男子個人形：笹森悠太選手が第3位でいずれもインターハイ出場決定。さらに柔道女子-78kg級：佐々木美沙都選手も決定。陸上競技部では入江亮選手が男子200mで入賞を果たし、昨年に続いて連続のインターハイ出場権を手にした。佐賀県で行われる全国高総体（インターハイ）では、出場選手25名一人一人が持てる力を十分発揮し、活躍してくれることを期待している。

その他に全国大会に出場するのは、チアリーディング部、書道部の見附夏海さんである。この二つの部の活躍も見逃してはいけない。

連載

変わりゆく 校舎



②「未来への礎」(工事本格化)

《武道館》

新1号館、新体育館に先駆けて4月下旬に武道館が完成し、5月8日に武道館開館式が行われました。

《新1号館・新体育館》

毎日、生徒たちや先生方に見守られながら建設工事は進んでいます。日に日に工事の状況が変わり、建設中の校舎の様子がめまぐるしく変わっています。この様子は、光星学院高等学校ホームページに工事進捗状況として写真入りで掲載しています。(毎週更新中)

6月に校舎の土台となる基礎工事が終了し、今後の工事の行方は上方に延びていくことになります。まさに光星学院高等学校の未来への礎となるべく、校舎の基礎工事が完了したのです。これからは、みるみるうちに校舎が立ち上がっていき、秋頃には早くも新校舎の全容が見えてくるでしょう。完成予定は1月頃となっています。



「祇園の風情を」ー35周年を迎えて野辺地夏祭り参加



今年度の祭りのスローガンは、「伝えよう、歴史の重みと祇園の風情を」でした。夏祭り当日8月19日は心配した雨もなく、残暑の厳しい中、生徒・職員合わせて100名余の行列となりました。運行と集合を含めて3時間程（山車運びの生徒はそれ以上の時間がかかりました）の祭りの参加でしたが、参加した生徒からは「疲れたけど充実した時間だった」「また来年も参加したい」という声が多数聞かれました。



本校は「地域とのつながりを深める」目的から6年前から山車を製作して参加しています。祭りに参加することは、地域の方々と交流できる絶好の機会と捉え、取り組んできました。

山車の製作については実際、大変な手間がかかります。祭りに参加した当初は、人形や背景などの作り方の手順がのみこめず、なかなかはかどりませんでした。今では大分要領よく進められるようになってきました。



山車製作で一番苦勞するのは「製作」もさることながら、「『題材』を何にするか」です。構図や飾り付けなど、すべて題材で決まります。知恵を絞りに絞って、今年はスローガンに沿ってテーマを考え、「花の御所、義政と富子」となり優雅な風情を強調しました。

例年、6月頃からとりかかり、夏休みにはいっと本格的な作業に入りますが、今年度は文化祭、体育祭、体験入学と行事が重なり思うような作業が出来ませんでした。猛暑が続く中、ジャージ姿と作業着姿に汗拭きタオルを首にかけ、汗だくになりながらなんとか完成に漕ぎ着けました。

3年前から夜間運行することになり、本校の祭り参加が日中の一日だけとなりましたが、今後も地域との交流を深めるため、関係者一同来年の企画に向け考えを巡らしている所です。





県高校総体六連覇の余勢を駆って、6月24日山形県総合体育館（天童市）に於いて、東北高校総体4連覇の懸かる決勝戦に臨んだ。

個人戦は形（安野・柴崎・新岡）、組手（海洋・柴崎）共に予選（1～3回戦）で前日まで敗退している。

決勝の相手は4年連続して宮城県石巻市立石巻女子高校。過去何度も東北を制

女子空手道総体6連覇・東北総体4連覇

している強豪、しかも選手5名の内3名が今大会個人戦の1・3位という過去最強の布陣。戦前から苦しい戦いが予想され、4連覇危うしの声も…。

いよいよ決勝戦。相手の動きがどこことなく堅い。勝って当然という意識から緊張しているのか？我選手達の4連覇達成へのプレッシャーも大変なものだろうが、それを強い意志ではねのけるかの様に良い動きをしている。

2勝2敗で迎えた大將戦。主将尾ヶ瀬に4連覇が懸かる。気合いの入った相手のよく見えている戦いぶりです。2対1の僅差で勝利、優勝。東北大会4連覇の偉業



達成である。

さて、次は佐賀県でのインターハイ。東北大会優勝の喜びに浸る暇もなく、全国制覇に向け、迫監督の熱くて厳しい指導が続く。

先輩から見た6連覇

教育実習生による密着レポート

赤泊麻衣子（東北福祉大学4年）

教育実習生として久しぶりに母校に帰ってきました。そして、高校総体の約一週間前から練習に加わりました。部員たちはインターハイ出場をかけた試合を目前に、緊張・不安があり、それが手にとるように伝わってきます。



それでも、日に日に気持ちを練り上げ、調子を上げてきていたように感じます。

試合当日になり、ウォーミングアップの時に

は、緊張してガチガチになったり、周りが見えなくなってしまう選手など、高校総体独特の雰囲気が部員たちに与えるプレッシャーはとてつもないものでした。私には何が出来るのか、私が現役だった頃はどんな言葉をかけられたらリラックス出来たかなど、思い出しながらアドバイスをしました。メンタルサポートは目に見えない分、とても難しいものだと実感しました。

順調に勝ち進み決勝戦前までは、チームが一つにまとまり、とてもいい雰囲気で試合に臨むことが出来ていたと思います。結果は5－0で圧倒的に勝利し、見事6連覇達成。



今回指導する立場として練習・試合を見て、指導する方が数倍苦労することが多いことを実感した2週間でした。でも、現役時代に監督、部長が残してくれたこの貴重な体験が、今の私にとってとても大きな支え・自信になっているのと同様に、今の部員たちもこの経験が一生の宝物として、残っていくことと思います。

さよならガブリエル君

～たくさんの思い出を胸に帰国～

ドイツからの留学生のガブリエル君が6月に帰国しました。彼は昨年の9月より6月末までの10ヶ月間、本校で学びました。野辺地町内にホームステイをし、通学しました。本校では、日本語の勉強を続けながらさまざまな行事に参加して見聞を広めました。

最後の送別会では、思い出の写真とともに感謝の言葉を添えてお別れのスピーチを述べました。そのスピーチによると、特に思い出に残ることとして、たくさんの友人が出来たことと日本文化に触れることができたことを挙げています。

中でも印象深かったのは、沖縄・京都



への修学旅行、クラスメートとの交流と部活動（バドミントン）だったようです。京都や庭に興味があった彼には予想以上の素晴らしさだったようです。

またクラスメートやバドミントンのチームメートなど同世代の人たちとの交流は何物にも代え難く、楽しい時間を共有できたようです。

時には「時間がゆっくり過ぎたらいいのに」と思うような、たくさんの思い出

ができた貴重な10ヶ月間であったと彼は述べています。

帰国後、彼は大学に進学し、グラフィック関係の勉強をする予定です。日本語や日本文化についても一生付き合っていくことです。

私たちが彼から学んだことも多く、礼儀正しさや誠実さなど、日本人としての生き方や日本文化を再考する機会を与えてくれたように思われます。



ボランティア部の活動について

野西高のボランティア部活動は様々なところからの依頼を受けて活動することが多く、福祉施設、社会福祉協議会、教育委員会などの他、役所の建設課などからも依頼を受け、道路の危険箇所の検証などに同行したりもします。活動内容は例えば、子供会のキャンプ、独居老人宅の除雪奉仕、ウィンターフェスティバル、障害を持った人達のレクリエーション大会等々です。そのほかには小学校に併設されている障害児学級のバザーやクリスマス会、保育園のお手伝い、老健の祭りや文化展などでのお手伝い、下北自然の家でのスタッフとしての活動等があります。

す。また、JRCやインターアクトクラブとしての活動もあります。さらに野辺地高校と合同での活動（地域清掃活動など）も年に数回します。

今年はまた、インターアクト年次大会のホスト校として本校を会場に開催しました。（選挙で会場を変更）部員一同全力で200名近いインターアクターやロータリアンの方々におもてなしの心で接してほしいと願い、顧問2名で指導に当



たって来ました。この大会の成果はこれからの人生にとって大きな自信につながることでしょう。

部員は活動を通じて多くの人達と交流し、他者への偏見がなくなり、誰とでも自然に会話が出来ようになって、思いやりのある人間として成長しているようです。また、活動をいろいろな場で発表する機会が増えることで自信もついてくるようです。

生徒たちは何度か活動にしていこううちに「誰かの役に立ちたい、お手伝いがしたい。」という素直な気持ちでボランティア活動をするようになります。もっと多くの生徒がこの活動に興味を持ち、参加してほしいと願っています。

***野辺地高校と合同の清掃奉仕**

H19・6・18 デーリー東北新聞記事から



7月7日・8日の両日、野西高祭が開催されました。

文化祭の二日間は好天に恵まれ、多くの観客でにぎわいました。例年通りの総合学科展や文化部展の展示が公開された中、新しい試みもいくつか見られました。今回初めての試みとして1年生全員が「空き缶アート」に挑戦しました。短期間の為に、みんなで集めた空き缶の数が足りず、地元の企業（コカコーラ）の協力も得て、完成にこぎつけました。やっ

てみると大変だったのは「洗うこと」と生徒諸君は実感したようです。それでも「野西祭」と「welcome」の二作品を完成してみんな満足の表情でした。

好評だったのは「野外ステージ」と「模



擬店」です。「室内でなく野外でもイベントをやりたい」と生徒会が企画し、野外ステージを組んで初めて実現したものです。文化祭の雰囲気大いに盛り上げるものとして活気に満ちたイベントが展開できました。今回は「カラオケ大会」

と「ギターソロ」のみでしたが、次回からは1日に二つ以上の企画を実現したいと生徒会のメンバーは意気込んでいます。

また、「模擬店」については、以前のテント利用の形もありましたが、屋台形式の「模擬店」を生徒自らこしらえて販売し、「こみせ」のような屋台の飾り付けは華やかさも増したような感じがします。

まだまだ内容に不満の声も多く、今後、更に充実した内容にするべく、生徒会を中心に来年の準備が始まったところです。



高校総体・甲子園予選の主な戦績

平成19年度 青森県高校総合体育大会成績

《空手道部女子》

団体組手 優勝（6年連続優勝）
個人形 優勝（新岡 清夏） 第二位（安野 蘭子）
第三位（柴崎 純花）
個人組手 第二位（海津 光） 第四位（柴崎 純花）
全国高校総合体育大会出場 東北高校総合体育大会出場

《器械体操競技部》

男子団体競技 準優勝
男子個人競技 第七位（佐伯 卓） 第九位（木暮 陽人）
第十位（三上山 徹）
東北高校総合体育大会出場

《レスリング部》

団体戦 第四位
フリースタイル 55kg 優勝（清水目 聖）
120kg 優勝（工藤 裕雅）
96kg 第二位（田村 和也）
50kg 第三位（戸館 渉）
グレコローマンスタイル 96kg 優勝（田村 和也）
55kg 第二位（清水目 聖）
120kg 第二位（工藤 裕雅）
84kg 第三位（藤沢 朋生）
50kg 第三位（鳥谷部 寿樹）
最短フォール賞 記録 9秒（山田 大地）
全国高校総合体育大会出場 東北高校総合体育大会出場 東北総体（三二国）

《バドミントン部》

男子学校対抗 二回戦 野辺地西 3-0 五所川原
三回戦 野辺地西 3-0 青森商業

女子学校対抗

準々決勝 野辺地西 0-3 弘前工業 ベスト8
一回戦 野辺地西 3-2 五所農林
二回戦 野辺地西 1-3 弘前実業
個人ダブルス（男子）吹越&中村 ペア（一回戦敗退）
〃（女子）阿保&鳴海 ペア（一回戦敗退）
シングルス（女子）阿保 笑巳理（二回戦敗退）

《サッカー部》

二回戦 野辺地西 2-1 青森西
三回戦 野辺地西 1-0 弘前南
四回戦 野辺地西 0-2 八戸 ベスト16

甲子園予選

二回戦 野辺地西 5-6 五所川原

東北高校総合体育大会

《空手道部女子》

団体組手 優勝（4年連続優勝）
個人形 新岡 清夏 準々決勝敗退 柴崎 純花 二回戦敗退
安野 蘭子 一回戦敗退
個人組手 海津 光 準々決勝敗退 柴崎 純花 二回戦敗退

《レスリング部》

フリースタイル 55kg 清水目 聖 二回戦敗退
120kg 工藤 裕雅 二回戦敗退
96kg 田村 和也 一回戦敗退

《器械体操競技部》

男子団体競技 11位

第二しなのめ幼稚園

絵本から広がる表現のたのしさ

絵をかく幼稚園

第二しなのめ幼稚園と聞けば「ああ絵をかく幼稚園」と言われる程、一般には子供と子供の絵が定着した感じに捉えられています。

人と人のコミュニケーションの根底は伝達にあり、友達と一緒に行動する事を表現抜きに考えることはできません。その意味からも、文字もなく言葉も少ない幼児たちにとって、いつでも、どこでも、誰にでも、自分の思いをより具体的な形で表し、自分を語り、人にも分かって貰える絵の活動は、幼児教育の根幹であり、当幼稚園教育の柱であります。

然し、幼児期の表現は一表現に固定せず、多様でなければなりません。当然、造形の他に、運動・音楽・遊戯・言語を含む知的活動も自己表現の大事な表現世界であり、当園が、未来への豊かな感性を育む、楽しい絵本の世界を広げるのもそうした表現世界の一つだからです。



どれも年長の子。タイプはそれぞれ、どの絵も素晴らしい

イメージを膨らます読み聞かせ

幼児の絵本への親しみは、親や教師の読み聞かせが発端です。語い不足の幼児が絵や音楽、身体表現に頼るのは当然ですが、自身は懸命に自分の言葉でも伝えたいのです。

昔の子はお婆ちゃんお母さんの寝物語などで昔話に親しみ、言葉も、想像力も蓄えていきました。子供は今も同じです。教師や親の読み聞かせが、自分なりのイメージを膨らませ「目に見えないものを見る」という貴重な体験となり、自由な形・色・動きとして、絵や、言葉になって、表現を広げるのです。

年長児の読み聞かせ



担任によるお話も、内容によって服装を替えたり（写真では「魔法使いの大王さん」で魔法使いの帽子やマントを用い、お話の後、魔法の力で自分の理想の家を絵で作る）途中まで話し、続きを考えると、そのまま絵を見せながらの読み聞かせ等、毎日の朝や帰りの会を中心に絵本への関心を高めています。

教師の語り聞かせ「魔法使いの大王さん」



絵本おたのしみ広場のスナップ



絵本お楽しみ広場の設置

毎月曜の「みんなの会」では、「園長先生のお話」プロがあり、年少から年長までを対象に、TVを用いての絵本の実物映像による読み聞かせや、素話など年間を通して園児の絵本を楽しむ世界を広げています。

然し本園には、絵本を教育力として發揮させる図書室に当てる部屋もなかったため、この夏から、狭いながらも敷物のある「絵本お楽しみ広場」を作り、夏休み預かり保育の子たちから、履物を脱いでの感触の中で、絵本読みを楽しんで貰っています。勿論以後も続けます。

文字を教えもしないのに、年長では絵本読み聞かせの希望者が多く、場の設定に担任が苦慮しています。1学期末のみんなの会では、年長児が絵本を読み聞かせてくれました。全園児の前でお気に入りの絵本を手に、ゆっくりはっきりと読み、感動を共有しました。

言葉への興味関心、話す聞く豊かさは、お話を聞き、更に自分の物語を作っていく楽しさまで味わう体験にも繋がっていくでしょう。

教師と子たちは勿論、親子で絵本を中心に温かい触れ合いの場を持つ中から幼稚園教育の狙う、豊かな心、個性溢れる、表現の世界が広がって行くことこそ、私達第二しなのめ幼稚園の願いです。

みんなの会での園長先生の昔話披露



プロボクシング 木村登勇選手（光星学院高校卒） 10 度目防衛



PROFILE

木村登勇（きむらのりお）

昭和53年 3 月15日生まれ
青森県三沢市出身
身長172cm 体重72kg
横浜光ジム所属

元日本ライト級、現日本Sライト級チャンピオン（現在10度連続防衛中）
世界ランキング WBC10位 WBA15位
1996年 5 月20日デビュー
戦績 39戦32勝（16KO）5敗2分
（2007年 7 月21日現在）



光星学院高校出身でプロボクシング日本スーパーライト級チャンピオンの木村登勇選手（横浜光ジム所属）が、7月21日、東京後楽園ホールでタイトルマッチを行ない、7ラウンド1分3秒TKOで勝利し、10度目の防衛に成功。このクラスの防衛記録の日本タイ記録に並んだ。

木村選手は最初から有効打を重ねて、7ラウンドに一気に攻めたところで相手陣営からタオルが投げ込まれ試合が終了。力の差を見せつけた。10度の防衛に成功した木村選手は、新記録となる11度目の防衛に意欲を見せた。

7月4日～7月8日（米国時間）にかけて米国ノースカロライナ州ダーラムを中心に行われた日米大学野球選手権大会において、光星学院高校卒の村松伸哉選手が、日本の優勝に貢献しMVP（最優秀選手）に選ばれた。

村松選手は先に行われた全日本大学野球選手権大会で1年生ながら150キロを超える速球で一躍脚光を浴び、その実力が認められ全日本の選手に選出された。

日米大学野球選手権大会 村松伸哉選手（光星学院高校卒） MVP

日米大学野球では救援投手として起用され、5試合中3試合に登板。合計4イニングと2／3を投げて無安打、無失点の好投をした。

圧巻だったのは、1勝1敗で迎えた第3戦、今、話題の斎藤佑樹選手（早稲田大学）が先発した試合に3番手の抑えと

して登板。1点リードで迎えた最終回に、メジャー予備軍のバッターをMAX151キロの速球で三者連続三振に打ち取り、メジャー

リーグのスカウトたちから高い評価を受けた。

村松選手は、MVPに選ばれたことに関して、「投げたイニングも短い、もらえると思わなかったのうれしい」と笑顔を見せた。

これからの活躍が期待される。



7月29日(日)、8月4日(土)、5日(日)と3回にわたり、ハル大学・ハル短期大学がある美保野キャンパスでオープンキャンパスが行われた。

今年度は「開きます。OPEN CAMPUS2007」というテーマで開催した。毎回、特集として「今日一日で明日が変

美保野キャンパスから新しい情報発信!! ハル大学・ハル短期大学オープンキャンパス開催

わる！」講座と題して、働くことの意義、食生活における未来の健康、新聞による情報収集の仕方などについて講義が行われた。その他にも学友会によるクラブ・サークル紹介、学食体験、在学生とのフリートーク、スタンプラリー形式による施設見学等様々なイベントが開催された。

このオープンキャンパスは、ハル大学とハル短期大学が有する4つの学科（ビジネス学科、人間健康学科、幼児保育学科、ライフデザイン学科）が合同で行っ

たもので、青森県内はもとより、秋田県や宮城県の大学・短大を希望している高校生及びその父母らが一堂に集まり、美保野キャンパスが賑わった。また2008年4月に開設予定のハル短期大学看護学科へ入学を希望する高校生らも多く参加していた。

次は9月8日(土)に「世界と私たちの未来、夢を引き寄せる学園生活」のテーマで行われる講義を中心に4回目のオープンキャンパスが開催される。

学院キャンパスだより第6号

発行 学校法人光星学院
編集 学院広報編集委員会

〒031-8566 青森県八戸市美保野13-98
TEL 0178-30-1411
URL <http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>

第6号表紙 野辺地西高校

野辺地町枇杷野に昭和48年、光星学院野辺地工業高校として開校。平成9年に総合学科を設置し、名称を光星学院野辺地西高校へ変更。今年で35周年を迎える。野辺地祇園祭には自分たちで山車を製作し平成13年から参加している。

